

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表: 2024年 3月 9日

事業所名 いっぼのひかり

保護者等数(児童数) 22 回収数 22

割合 100%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	21			1		
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	19			3		
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境*1になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	19			3		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	21			1		
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画*2が作成されているか	22					
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	20			2		
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	22					
	8 活動プログラム*3が固定化しないよう工夫されているか	21			1	毎回、違う遊びを考えてくださって子どもも大変喜んでます。	
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	18	1		3		併行通園であるため、在籍している園の子どもと交流できています。また、同法人の隣接する場所にこども園があるため、庭で交流する機会もあります。
保護者 への 説明等	10 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	21	1				
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	21			1		
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング*4等)が行われているか	22				とても勉強になる。子どもとの向き合い方がいい方に変った。	
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	22					
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	20	2				相談等のご要望があれば対応致します。
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	17	1	1	3		要望があれば検討致します。
	16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	21				1	

	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	21	1			
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	21	1			月に1回、お便りを発行しています。自己評価の結果について公表していることを周知徹底していきます。
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	20			2	
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	15	1		6	それぞれのマニュアルは策定しております。今後、機会などで周知・説明していきます。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	16			6	避難訓練を行っています。ただし、利用日に該当しない場合もあります。
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	20	1		1	毎回、とても楽しみにしています。帰りの車で出来事を楽しそうに話してくれます。
	23	事業所の支援に満足しているか	22				

\*1 この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすること。

\*2 児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

\*3 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

\*4 保護者が子どもの行動を観察して障がいの特性を理解したり、障がいの特性を踏まえた褒め方等を学ぶこと。子どもが適切な行動を獲得することを目標としている。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2024年 3月 9日

事業所名 いっげのひかり

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4		活動内容に合わせて、人数や場所を変えている。	
	2	職員の配置数は適切である	4		少人数のグループでの活動ができる。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4		必要に応じて環境をその子に合わせてくれる。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4			
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4			
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	1		全職員への周知徹底を図る。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	1		全職員への周知徹底を図る。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	3		第三者による外部評価は行っていない。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4		月に1回以上、職員同士での話の場があり、意見を聞くことができている。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4			
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4			
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	4			
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4		進捗で、過去の活動内容を確認している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	4			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4		朝礼でスケジュールを確認している。季節の移り変わりは必ず行い、注意点や大事な事を確認する。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	1	必ずではないが、子供の話をするようにしている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4		写真や動画で残すことでより分かりやすい。	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4				

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	2	2		全職員への周知徹底を図る。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		4		医療的ケア児、重症心身障がい児はいない。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		4		医療的ケア児、重症心身障がい児はいない。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4			
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	1		
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	2		全職員への周知徹底を図る。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	1		
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	1		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4		お画面やLINE等で対応している。	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4			
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	1		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	2	父母の会はないが、茶話会をペアレントトレーニングの時に設定することもある。 父母の会はないが、総会や年数回の親子通園で保護者同士の関わりもある。	要望があれば検討していきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4		お画面やLINE等で対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4			
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	4			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3	1		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		4	地域の方を招いての行事等は行っていないが、社協等が行っている活動に対し、場所の提供は行っている。	

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4		不審者対応の訓練を実施した。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3	1		
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	2	2		服薬については朝礼等で情報の共有を行っている。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	2		該当する利用児がない。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	2	2		
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4			